

園だより 11月号



YMCA オリーブ保育園
2021年11月1日 発行
園長 矢野 久美

今月のねがい

- *木の実や落ち葉などの自然にふれる中で
五感を通して季節を感じる。
- *思いや主張を受け止めてもらいながら安心して生活する。

讃美歌

どんどんどん
ありがとう



園庭の木々の葉が色づき始めました。秋を飛び越え冬を思わせる寒さの中でも、朝から元気いっぱいに遊ぶ子どもたちの声と笑顔に自然と心が和みます。

早いものであつという間に1年の半分が過ぎ、後半の保育に入っています。

YMCAの保育理念である“一人ひとりのいのちが輝く平和な社会の実現を目指す”保育をもう一度、改めて職員全員が意識をしながら、丁寧に子どもたちと関わっていきたいと思います。子どものいのちが輝いているとき、そこにはきっと新しい発見があり、それを大人と共有できた瞬間が多ければ多い程、未来への喜びや希望に繋がってゆくのだと思います。

紅葉した葉っぱを集め、お友だちに『おてがみですよ』と配っている2歳児クラスの子どもの様子を、嬉しそうに話してくれる保育者がいました。

私たちは日々子どもたちの微笑ましいエピソードに囲まれ、心を豊かにしてもらっている事に改めて感謝をし、嬉しいことや楽しいこと、今しかできない、保育園だからこそできる集団での経験を、これからも模索しながら過ごしていきたいと思っております。

11月の第4木曜日が収穫感謝の日です

収穫感謝祭



17世紀の初めイギリス教会の激しい迫害を受けたクリスチャンの人々は、オランダに逃れました。そこでも迫害されたため信仰の自由を求め、老朽船のメイフラワー号に乗って120名がアメリカを目指し大西洋を渡りました。途中嵐にあたったり水や食べ物の不足に悩みながら3ヶ月かかって厳冬のマサチューセッツ州プリマスに上陸しました。寒さと餓えで50人がなくなりました。春になり近くに住むネイティブアメリカンたちが種を分けてくれたり農耕や狩猟の仕方を教えてくれ、秋に収穫が得られたことから彼らはネイティブアメリカンを招いて感謝の礼拝を捧げ食事をともにしたのが収穫感謝祭の始まりといわれています。

私たちは毎日食べ物に不自由することなく生活していますが、その食べ物である穀物、野菜、果物を与えてくださる神様に感謝し、その思いを子どもたちに伝える時を持ちたいと思います。